東京第4隊機関誌

第45号

月刊 No.045

September 15th 1956

SMILE

復刊の喜びを

[illegible]

古い者のスマイルをみるとよくわかるのだが、とてもすばらしいものであった。なぜかと、さぼ、それは隊員全部の熱意がこもっているからである。ほかいろいろな作品をだして、スマイルを面白いものにしていた。学校で行った遠足の帰え、きぼったなスンダなかなかこったカット。その他、いろんな思いのものがいっぱいあった。たし外国語についてかいた人もいた。こうして、皆の力で良いスマイルが出来ていたのである。

今度の又でイルも、皆の協力をおねがいすることができるように。

編集員は、はりきっています。四隊のスマイルを、日本中のスカウトに見せるために。

日本ジャンボリーを省て

世界中のスカウト、一五〇〇名を集めて行われた日本ジャンボリーは好評のうちにその幕を閉じたのであった。我々東京第四隊のスカウトも参加し、大きな感激をもかえったことは、諸君自身の胸のうちに、しっかりとやきついていることであろう。

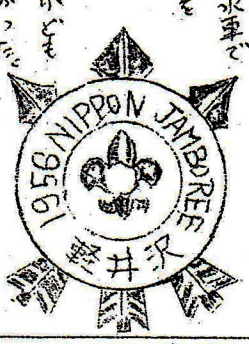
今回のジャンボリーに参加した二七名のスカウトは、会員二級以上のスカウトであった。だが、それにしては少々、物しがなさすぎたようだ。私は諸君が次いに反省して、名実共にスカウトとなることをねがう。

開会式や、オペンファイアーなど皆とても感激したのであった。又、アメリカのスカウトを招んで、歓事をしたのも、思い出に残るひとこまであった。

八日間のキャンプ中、もっとも苦労したのは水であった。ことにシャワーの設備のなかったことは残念である。外国のスカウトも大分困っていたようだ。

そしてそれにつけてもありがたかったのは、自衛隊の方々の善位、特に給水車である。あの給水車の音をどんなにまちこがれたことであったか。

そんなことがあったけれども、ジャンボリーはたのしかった。

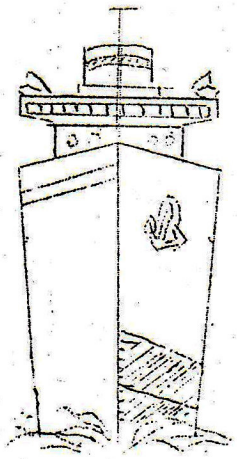


高橋準一君帰国

シー・リフトプロジェクトの日本代表の一人として渡米していた、シー・スカウトの高橋君が帰国しました。同君はもう七月十三日、米海軍の輸送船、ブレックンリッヂ号で日本を立ち、一月ほど外国各地を訪問してきました。今と、元気な姿をみせてくださいました。

シー・スカウト、船を手に入れる

かねてから、舟のないシー・スカウトと残念がっていたシー・スカウトの面々に、遂に船が手に入った。これは、かつて運輸省船舶訓練所の練習船、日本丸についていたライフボートで、高石鉄屋さんの手に、ていたのを、ふとした機会に、その人から借りることが出来現在沼津の浜にもやつてあるそうである。その内には金をはらって自分達のものにするのだそうだ。将来の予定としては、この船を陸に上げ修理をした後エンジンをつけるそうである。



島生君長野へ移転

武永さんにおしえていただいた、鶴賀市の島生君、B・Sに入って来た島生君も、ジャンボリーを最後に田舎から長野へ、こしたのです。入りかわりの為は君も、前君や中村君、西野君、山本君、堀中君、佐野君、大野君、大島君、長谷君、日下部君、藤井君、福井君等と入って来ましたが、未だ、さかったのにもう、中学一年生になってしまいました。この仲間の間でも何人かの人達がすぐにいなくなってしまいます。

島生君が長野の隊でも、さすが日本一歳かつ手たスカウトだと、小耳れるような立派なスカウトぶりを示し、他のスカウトをみちびいていけるまでにいのります。

なお島生君の住所は次の通りです。

長野県　長野市

大字西鶴賀一五一八

島生泰夫

アン・ノウン・ソルヂャー

ジャンボリーに参加した諸君は知っているだろう。その他にも知っている人がいるかもしれないが、知らない人のためにここに一つの話をかく。

あのいまわしい第二次世界大戦が行われていた時のこと。大平洋上のあるところで、新しい日本軍と米軍とが、しのぎを削っていた。その時、米軍は、日本軍の暗号は非常にわかりにくく、米国軍はこれに悩まされなければならなかった。

今、一人の米国兵が、箱を開いて、ボタンをおしてみていた。「誰とうはまっ暗のなかから、時折、何か光線のまばゆさを放っていた。南洋の熱帯の夜空の向かうから、あちこちの個所にもそれを繰り返した。

その時、一人の日本兵が発見した。その光線は、彼を見つけるや、緑がえんをおすと、敵はわかりかけた。日本兵の敵はもうすぐ目の前にあった。彼は、自分の命が危くなった。その時、敵は、無意識のうちに、引金をひいた。すると、やっこいたボーンとあたりの三方の散乱を、まきちらしたのだ。

彼は、無意味な死をとげてしまった。……

数時間の後、敵は、ふと目をさました。記憶がよみがえった。敵は、日本兵の敵ガンにつきまとわれたのだ。だが何をも知らず、ふと知れなくなってしまった。敵は、何かを知ったのであった。敵は、身体をうごかしてそれを取

つた間 級は 傷にまかたらしいほうたりかすか
ルで手当がしてあった。 そして、その紙片には、
こうかいてあった。「私もキど日本にいたければ
ガーイ。スカウトに入ってください。同じ三指の
勇敢なるガーイ、スカウトのあなたを待ってい
ます。」

この日本兵は、どうしたが知も知らない。
恐らく、このスカウトより友情を忘れなかった、兵
士を思い、その恩を忘れず、[illegible]
長の教育で病院を作ることになった。
その費用にあてるため、一人十円の寄せんを行っ
ている。四隊でも、貯金箱がかけてあるから、ぜ
ひ皆様にも入れてほしい。

班長は望む

（この記事は、本紙編集員と小林班長との対談によるものであります。）

このところ、各班のキャンプやハイクが立て
続けたのが目だつ。

この原因は各班が、訓練というよりも、班のま
とまりをつけるため、班員の親ぼくをはかるため
の共同の業であるらしい。なぜこんなことをしな
ければならなくなったかというと、それは、最近
どうした訳か班員が何かしっくりしかない。班長
もあまり班長らしく思われない。そこへもって
来て、日本ジャンボリーがあって、隊で行動を一
つにした。又、各自をそうだぞ各自がとられ
てきた、隊集会二回 班集会一回 グリーンバ
ッ一回というわけるも、班員たちにしてみれば、
どうもやはりたくいとっう。それはなぜか……
小林さんいう、隊集会はもっと楽しくて、班
集会をふやし、毎月グリーンバッで賞りお出した
ことを班集会で班員に教え、それを最後の隊集会
で競うようにしたらよい。そうすれば各班の間に
競争心もはれるだろう。 現在の班集会も、教会
の中だけに限られているし、始めと終りはSPL
が司会をやり、終り頃には隊であつまってゲー
ムなどをやる。これでは班集会も隊集会みたいで
つまらないし、他の班ともいっしょになるし場所
がせまいので自然話をしたりふざけたりするよう
になってしまう。

以上、皆もっともなことであると考える。班集
会位せめて場所を変えてやりたいだろう。他の班
員がいれば遠慮がないのもなるほどとうなづける
。それにはどうしたらよいのだろうか。

小林君は又、こうもいう。「近頃隊でやるゲームは
殆んどが屋外で、かけまわるゲームだ。もっと室内で
楽しめるようなゲームもあっていいのではない
だろうか。集会も、暑さのために出ずらかった。低学
年は、もっと隊の部屋を使ってやりたい。そうすれ
ば、自分の隊ということがもっと！！身近に感じら
れるのではないだろうか。」……

次のようなことも班集会、ひいては班活動というも
のをさまたげになっているのではないかろうか。

それは班費のことである。 現在、うちの隊では、
班費はとることはいけないことになっている。隊費でうま
かう、班にちょうれるのである。ところがこれも、キ
ャンプとかなんかの時に、四班集計に同じものを買物
でちょうれている。 これはたしかに良い面もある、
だが、悪い面もはるかにおきい。 というのは、各班
の激しているものは一様ではない。隊の買うものは
は、皆、スカウト生活にぐ必要なものばかりかもしれな
い。だが、班には、それよりも今すぐほしいものがあ
るかもしれない。 それかう 自分達で班費を使うこ
とによって、その班には特徴が出来てくる。その班費
を使って班の自慢になるようなものをこしらえることも
できる。 班でどこかへ行くときに、費用の一部を
班費から補助することも出来る。 そして何よりも大
切なことは、スカウト達に計画性と、自主性をもたせ

ることが出来るのである。
スカウトの手を借り、何とかして隊を今以上の良い隊に、気持の良い、居心地の良い隊にしようと努力しているし、リーダーも ここで全能を入れてかからねば、スカウトの希望も無意味になってしまうだろう。

K

お知らせ

○…日曜学校日大会 九月二十三日は彼岸中日、青山学院で午後二時から、学芸会も行われ、四隊も参加する予定であります。

○…功章にプレート 長い間スカウトが待ちのぞんでいた・プレートがいよいよ実施されることになりました。これと共に、功章も新しくなって、一・二・三段階でそれぞれ数字が入っています。プレートの色は、カブ(第一、白)、ブルー(第二)、グリーン(第三)、ゴールド(第四)です。

○…台湾ジャンボリー 中国童子軍では十月二十五日から、ターペイ湖の畔で、世界、五十ヶ国の名のスカウトもあつめてジャンボリーを行います。日本代表も招待されていますが、参加したいスカウトは目迄まで申し出て下さい。費用は六万円ですで、詳しいことは隊長の所まで。但し一級以上のスカウトです。

ダジャレ スカウト・キャンプのうた

作詞 飯田貞雄

一、しみづのせせらぐ
　サイトについたぞ (志水さん)
　あのたかつかに
　テントを張ろう (高塚次長)

二、みんなでかかれば
　仕事ははづむ
　あな道したに
　便場を掘ろう (道下上班)

三、汗みづたらして
　夢中で掘ったが
　これは無理だよ
　石だよ 石だ (石田さん)

四、遠いお山に
　陽がおちて (遠山さん)

五、設営すんで
　作業はよしだ (吉田先生)
　すきはらかかえて (杉原さん)
　おなべをつつけば (渡辺さん)
　どこの班だろう
　味がうすいね (臼井さん)

六、夕食すんで
　ファイアーかこみ
　楽しいひととき
　今だよ 今だ (今田隊長)

七、月もニコニコ
　SMILEで
　ほんとにキャンプは
　いいだ いいだ (これはだれでもいいだ)

(お断り 無断でお名前をお借りした十人の各位 どうぞあしからず)

編集後記

第四十五号の編集後記はこんな片すみに押しこまれてしまいました。本当に久し振りに筆をとりましたため、本号から しばらくの間原紙のテストをするため、ときどき字体の感じが少しかわりますが悪しからず

K.W

スマイル第四十五号(非売品)
昭和三十一年九月十五日発行
発行人 今田富士雄
編集人 渡辺澄
印刷 スマイル編集部
発行所 東京都港区霊南坂十四
日本ボーイスカウト東京第四隊